

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・ 来客数が多くなったうえに、中元ギフトが動いたので購入単価が従来以上に上昇した。
		百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・ 猛暑の影響で、サンダル、帽子、サングラスなど夏物商品は例年の約2倍売れている。そのため、ほかのファッション関連商品の購入を消費者は我慢しているようである。全体的には一時的に突出しているものの、まだまだ財布のひもは固い。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ 婦人ファッションに関しては、秋物衣料が店頭に並び始めており、客の関心度が高まっているが、なかなか決定には至らず、試着のみに留まるケースが多い。ただ、夏物のセール時と比較すると関心度が高まっている様子がうかがわれる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・ 普段なら買い控えになる生活防衛型消費が、猛暑効果によって盛夏物への消費につながっており、消費者の購買意欲が高まっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ 猛暑の影響で、利益率の高い清涼飲料水の売れ行きが好調で粗利が上昇しているが、一昨年の水準までには戻っていない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・ 天候の影響で売上は非常に良かった。清涼飲料水や氷菓などが特によく売れ、お盆を過ぎても気温が下がらなかったことが最大の要因であろう。しかし、客単価は高くないので、売れて当然の商品が売れている現状では最大限には喜べない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・ 残暑の影響でエアコンの販売が引き続き好調であった。地上デジタル放送完全移行まで1年を切ってテレビの販売数量が大幅に増えた。また、エアコン、テレビとも家電エコポイントの後押しがあった。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 前年が冷夏で不調に終わった影響もあるが、お盆ごろから好調に推移し、お盆明け後も好調を維持している。猛暑の影響でランチタイムよりディナータイムの客数が戻ってきた。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ 夏休み期間の来客数は前年比5%増加した。しかし、消費単価は低下しており売上は前年同額程度である。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・ 例年、8月は年間で最も需要の伸びない月であるが、地上アナログ放送の終了まであと1年となったことが繰り返しマスコミなどで流れた効果もあり、ケーブルテレビ新規契約件数、デジタル移行件数とも前年同月を上回っている。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ 携帯電話は、低価格帯の機種が販売比率の多くを占めるようになり、機能より端末価格が影響するようになってきた。		
美容室（経営者）	単価の動き	・ 高価格帯のヘアケア商品の売れ行きが好調である。		
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・ 猛暑の影響で通行量が2割程度減少している。また、ファッション関連では猛暑の期間が長期化し秋物への移行が遅れている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ 猛暑のためファッション関連では秋物の動きが鈍い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ 気温35度と聞いても驚くことがなくなり、人出も心配していたほど少なくなっていないが、やはり例年に比べると人通りは少ない。家に居ても暑く、出歩いてはみたものの、いまひとつ消費にまでは結びついていない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・ 販売量は目標金額を2割下回った。全体的に物が動いていないことと法人関係の経費削減の影響が出ている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・ 客の購買の様子をみると、慎重に吟味し必要なものだけ購買している。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・ 客の購買行動に再び引き締め感がみられる。高額商材の販売に若干買い控え感も見られる。

スーパー（店長）	お客様の様子	・猛暑の影響が非常に大きく、好調商品と不調商品の差が明確に出た。インナー関係、服飾関連、UVケア商品、清涼飲料水・氷菓など猛暑関連の商材については特に良かった。また、旧盆需要、中元ギフトも非常に好調に推移したが、その他の商材は横ばいであった。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の伸びがなく、客単価の上昇、買上点数の増加が見られない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・前年売上を確保するために、ポイントセール回数を増やしている。状況はどこのスーパーも似ており、同様にポイントカードのセールを実施せざるを得ない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響で清涼飲料水や氷菓などの動きが良いものの、それ以外のもので際立ったものはなく、来客数の増加、販売量の増加は見られない。
コンビニ（店舗管理）	お客様の様子	・例年、猛暑は業績を上向きにする傾向にあるが、今夏はその傾向が見られない。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・連日猛暑が続いており、来客数が減少している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暑さで晩夏初秋の季節の変わり目が分からないため、この時期向けの商品が苦戦している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来客数が少ないことや売れる価格帯が低いことなどは従来と同じである。胸周りをゆったりするとかウエスト直しなど修理、直しの注文が増えている。
衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・株価が低下しているとか、円高だと問題になっているが、現在のところは特に売上が低下しているわけでもなく、以前と同じように推移している。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・猛暑によるエアコン、冷蔵庫の売行きが異常に良いが、猛暑に関係のないテレビ、DVD、パソコンも前年を大きく上回る売上である。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・エコカー減税とエコカー補助金の駆け込み効果が新車販売の環境を良くしている。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は前年同月比で約8割増加しているが、新車購入補助金終了前の急激な駆け込み需要によるところが大きく、円高、株安による、客の購買心理の低下を上回っている。
自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・集客は前年並みであったが単価が低い状況である。特にAV関連機器は低価格が主体となっている。
その他専門店[酒]（経営者）	販売量の動き	・良くなることだけを期待して底を這いずり回っている感じが続けている。
その他専門店[医薬品]（営業担当）	単価の動き	・デフレマインドに入ってから1年が経過したが、依然として販売価格は1、2円ずつ値下げ傾向にある。客は5円、10円の価格差で購入するものが変わっている状況が続いている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・お盆期間は例年並みの売上を確保できたが、昼の客数が例年の85%とかなり低下した。猛暑により外食をする人が減少している。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・客単価は上昇傾向にあるが、レストラン利用客数、宿泊客数の減少が大きく減収となった。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会、宿泊は前年比増加しているが、レストランは低調に推移している。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・見積案件が増えてこない。特に回復を見込んでいた海外団体旅行案件に活気が戻らない。上海万博需要も全くなくなってしまった。
タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑のため利用客が増えるのではないかと期待したが、記録的であったため、高齢者を中心に外出を避ける傾向があった。また、サラリーマンも自宅に直行するため、タクシー利用は期待はずれに終わり、客待ち時間が長かった。
通信会社（職員）	お客様の様子	・7月は一部の客に活発な動きが見られたが、8月に入ると停滞ぎみとなったため、しばらくの間様子見の状態が続いている。
通信会社（社員）	お客様の様子	・アジア向け輸出に関係する企業は好転傾向であるが、その他の企業からは良くなっているという声が聞かれない。特に県内での需要は芳しくないという声が多い。

	テーマパーク (職員)	単価の動き	・来客数の動きは、前年同月比ではほぼ横ばいとなっているが、販売単価の動きでは5～6%の下落となっている。特に物販関係の落ち込みが大きい。また、団体客・個人客ともに単価が落ちている。	
	競輪場(職員)	販売量の動き	・前年の売上傾向と同じである。	
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・来客数は少ないながらもコンスタントにある状況であり、良い、悪いのない状況である。	
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・企業の業績は改善しているが、従業員の所得などの改善までには至っておらず、まだまだ不透明な点が多い。	
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・住宅金融支援機構の長期固定金利住宅ローンのフラット35Sが伸びていると聞いているが、客の全体数には変化が見られない。	
やや悪く なっている	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・法人関係の需要が少なくなっている。	
	スーパー(店長)	単価の動き	・3か月前のゴールデンウィーク時と比較すると、客の単価の動きは、小さいパック物への移行、焼肉商材では牛肉メインから豚肉メインへ移行するなど、客の予算が低下している。	
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・エコカー補助金などの終了で駆け込み需要を期待したが、当店では対象車種が少ないこともあり不発である。高級車志向の客も環境対応車と補助金などを重視するようになり、二極から一極集中した感である。	
	乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・お盆を境に来場者が極端に少なくなった。	
	住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・残暑の影響はあるかもしれないが来客数が増えない。前年から比べても減少している。定年後の客の買物と現役の客の買物の仕方に大きな差が出ているように感じる。現役はやはり節約に走っている。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・円高の影響は旅行価格にまだ反映されていない。また、高速道路を利用した自家用車での旅行(安・近・遠)など個人旅行が変化している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・長距離だけでなく中距離の客までも極端に少なくなった。また、お盆すぎから夜の歓楽街からのタクシー需要も減少している。	
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・客の値引き要請が止まらない。一方、資材などの価格が徐々に上昇し利益率が低下、売上減と合わせ経営環境が厳しくなっている。	
	悪く なっている	一般小売店[鮮魚] (従業員)	販売量の動き	・猛暑の影響か、お盆期間の曜日回りが良くなかったのか、ここ数年にない暇な日が続いた。売掛金回収ではサイトの延長、内金の依頼が増えてきた。
スナック(経営者)		来客数の動き	・製造関係の客は忙しいとのことであるが、このままでは内外的に警戒感を持っており、様子見の状況になっていることがうかがえる。当店では黒字が出にくい経営状況となっている。	
観光型旅館(スタッフ)		来客数の動き	・総売上は前年同月比90.5%、宿泊単価は同99.5%、宿泊人数は同94.2%となった。売上減少の原因は宿泊人数の減少と館内消費の減少、昼食日帰りの減少といえる。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・9月までの受注に関しては非常に順調である。ただ、10月以降は不透明な状況である。
		一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・国内、海外とも引き合い件数が増えている。
		電気機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き新製品の受注が好調で、中でも秋終盤から初冬にかけての納品受注が多くを占めている。
		精密機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・受注状況は、3～4か月前に比べ増えている。一時に比べ生産能力的には縮小しているということもあるが、発注の際、納期的に今まで以上に日数を見なければいけない取引先が増えている。
		不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・異業種の取引先に聞くと、良くなっているとする取引先とまだまだデフレ状態が続いているとする取引先が半々くらいである。
変わらない	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・市況に一服感もあり、受注に力強さが欠ける。	

		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅資材関連以外の製品には少し動きが見られるが、多くのシェアを占める住宅資材関連は、相変わらず動きが見られない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上高でみると、今月は前年同月比マイナスである。前年は総選挙があり、その分がマイナス要因となった。その要因を除いて比較しても横ばいかややマイナスであった。
		司法書士	取引先の様子	・医療法人などの資産総額の変更登記で、債務超過の場合はどうなるのかという相談が複数あった。
やや悪くなっている		食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・デフレーションのなか、数量は前年水準を確保しつつも販売価格が10%前後低下している厳しい状況が続いた。追い討ちをかけるように直近月推移から見ると、天候の影響もあるが、販売量が5%程度低下している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・県内の老舗の土木業者がまた経営破たんした。今年度は公共事業予算が国で前年比18.3%も削られたが、これは実質の工事量では25%以上になるとされる。地方自治体においても発注ははかばかしくなく、地域的にも偏りが見られる。公共工事の受注がない会社も多々ある。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・円高により輸出関連の繊維製品などの運送が伸び悩んでいる。また、燃料なども円高により値下がりが見え始めるが、現在のところまだ低下していない状況である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・製造業においては輸出関連の企業も多く、現在の円高の急進については業績に影響が出るとの声が多い。
		税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の業種の中で、プラント関連、設備投資関連の仕事をしている客は、受注量が大幅に減少している。円高の影響で大手からの受注がストップしているのが原因であろう。
悪くなっている		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・破格の水準で受注獲得競争が続いており、採算を確保しての受注機会は極めて厳しい状況が続いている。
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が若干増えてきた。又、季節的な要因もあるかもしれないが、正社員の求人数も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が3か月連続で前年同月より増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業での業務量回復の兆しが見られず、人材の需要発生は当面無さそうである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・交代要員や産休の代替要員の求人はあるものの、新規事業や拡大に関する求人がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の求人広告は、前年同月比87%に終わった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は6.9%増と6か月連続して前年同月を上回った。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・派遣求人および紹介求人が減少したままで、回復の兆しが見られない状況が続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年度より増加しているが、学生の就職活動の長期化が進んでいる。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	